

■2025年7月5日に大災害が起きると予言された、元漫画家さんへ。多くの人々に不安と恐怖を与えたことが因果応報となってあなたのオーラを穢しています。願わくば心からお詫びをされ、例えば予言書のベストセラーで得た印税を被災地の方々へ寄付なさるなどして、少しでも罪を償われることを。

■たとえ悪意がなかったとしても、それを読んだ人が結果として怖れを抱き、混乱を招いてしまうなら、それはやはり罪深い行いです。

#### ■視聴者さんからいただいたコメント

「先日の配信「大災害の予言を拡散させたことへの責任を問う」に強く同意します。

小学生のお子さんの保護者さんから、子どもたちがとても怖がっている、学校でもその話題になり、また漫画なので、絵で災害の様子を見たらしく、とても心配しており、当日は津波の被害を受けないように、少し高台のマンションに住んでいる祖母宅に避難したいとのことで、そうされたそうです。

まだころの柔らかい子どもたちに、大きな不安、恐怖を与えたこと、「かもしれない」という不確定な情報を、漫画という子どもたちにも読みやすいもので伝えてしまったこと、とても罪深いと思います。

わたしは読んでいないので「災害が来ると言っているらしい」程度しか知りませんが、怯えているお子さんがたくさんいたということに責任を感じていただきたいと思います」

#### ■文藝春秋オンラインのインタビューより

(中略)しかし、今は違います。私のマンガや言葉に、多くの人が目を向けてくれています。だとすれば、今後起こるかもしれない災害への警鐘を鳴らすことによって、被害を最小限に抑えることができると思うのです。

私の防災意識も変わりました。自宅周辺のハザードマップを確認したところ、江戸中期の大津波を軽視していて、想定が甘いことがわかったのです。さらに調べると、その時の洪水で、今もある神社が1キロほど移動していたことも知りました。

こうした事例は、日本全国にあるでしょう。皆さんには、自分の住んでいる地域の地形の特徴や過去の災害を自分で調べた上で、しっかり備えてほしいのです。想定を超える災害があれば自宅が埋まる、といった危機が潜んでいるかもしれません。また、熱海で昨年起きた伊豆山土砂災害のような人災も考えられます。

いずれにしても、考える様々な災難に対して、備えておくに越したことはないはずですが、いざという時「やっておいてよかった」と言うことはあっても、「やりすぎだ」と苦言を呈する人はいないですからね。

■ご本人の意図を大きく超え、過去の作品がメディアで取り上げられ、自分のなりすましまで出てきた。なりすましに復刻されることを防ぐため、自身で『完全版』を出版した。それが多くのメディアに取り上げられ、大ベストセラーに。出版社、メディア、ネット記事、スピ系YouTuberによる拡散・・・自分の意図を超え、大きな尾ヒレもついてしまった。

しかし、元はといえばご本人の過去の発信が大元になっている。そのことに対する責任は問われる。

#### ■最新の記事

《今回のことで、どのようにニセ情報が出回るか、虚言が真実と受け取られるようになるか、その仕組みを学んだ気がします》

《出版社としては売れる本を出したいわけですから、かつてはプロの漫画家だった私も、理解できる点もありますが。今の私としては、不本意な点もありました》

→本当にスピリチュアルがわかっているなら、責任を引き受けること。そもそも「震源」は自分なのだし。